



# 社会科通信

NO. 19

発行者 第3学年社会科担当 安永  
令和2年12月10日発行

11月30日(月)に「模擬裁判・パネルディスカッション」を開催しました。テーマ「裁判から学ぶ、人が人を裁くときに大事なことは何か」。

当日は、神戸地方裁判所の国分 裁判官、神戸地方検察庁の中山 検事、そして上垣弁護士をパネラーとしてお招きし、パネルディスカッションも開催しました。

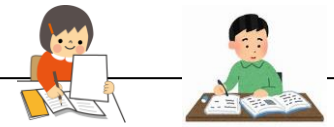
模擬裁判では、プロジェクトチームのメンバーが、教科書の題材を基にシナリオを独自に作成。決定的証拠はなく、目撃証言と状況証拠だけで、検察官は有罪に持ち込めるかがポイントでした。プロジェクトチームのメンバーが、裁判官、検察官、弁護士、被告人、証人を演じました。「まるで本物の裁判みたい」という声が挙がるぐらい、上手な出来栄でした。それを基に、班に分かれ、「有罪」「無罪」、そして「量刑」などについて「評議」を行いました。評議の結果、判決はクロームブックで報告。瞬時に結果が判明し、6割の班が「無罪」、残り4割が「有罪」という結果となりました。参観されていた裁判官、検事、弁護士、そして大学の先生・大学院生からも、シナリオの内容や模擬裁判の進め方、そして理由などについて、「中学生には思えないほどのレベル」との評価をいただきました。

その後のパネルディスカッションでは、法律の専門家から貴重なお話をたくさん聞くことが出来ました。「人が人を裁くときに大事なこと」について、「良心」とは何かを、それぞれの立場の方から、分かりやすく語っていただき、とても有意義な時間、そして経験をしたのではないのでしょうか。



## 【「模擬裁判」の感想】

- ・話し合う中で、有罪側だった私も納得できる意見が多くなり、話し合いの大切さを改めて知りました。(女子)
- ・私は多数決で無罪にしたのだけれど、1人だけ有罪にした人は納得がいってなかった。裁判官の方が、全員が納得することを心がけていると言っていて、本当に大切に難しいことなんだと思った。(女子)
- ・私は、最初有罪かと思っていましたが、班のメンバーが店長の言っていることに矛盾があると言って、確かにそうだなと思い、言っていることを分析する力があることがわかった。(女子)
- ・私は物的証拠が多く、個人的に有罪という意見を持っていたので、新しい考え方が増えて良かった。(女子)
- ・自分たちの作った脚本が、狙い通り意見が分かれたので、そこについてどう感じたかなども聞いて良かった。(男子)
- ・1班に1つのパソコンを持って、リアルタイムで裁判の集計をしたり、質問を送ったりと、今までにない新しいやり方で、とても良いなと思った。(女子)
- ・有罪にも無罪にも出来る証言がたくさんあったので、難しかったです。(女子)
- ・決定的な証拠がなければ有罪にはできない。誤認を防いだりするために、慎重な考えの下、手続きが行われていると分かり感動した。(女子)
- ・本当にあったことのように、でも誰かの証言がおかしいという題材で、プロジェクトチームの皆さんの練習の成果もあって、とても面白かったです。(女子)
- ・人によって見る証拠とかが違うから、たくさんの証拠品などを用意して、「多角的に物事を見る力」が必要だと学んだ。(男子)
- ・本当に有罪か無罪かの判定が難しかったけど、判決を迷って有罪にすることは出来ないなと思いました。(女子)
- ・自分の考えを言ったら、それに対する反論があり、またそれに対する反論もあり、少しの時間だけで、たくさんの意見が出て面白かった。(男子)
- ・人のこれからの人生・生活を定めることにつながるので、しっかり考えることが大切だと思った。(女子)



## 【「パネルディスカッション」の感想】

- ・テレビドラマなどで裁判を見ると、どうしても被告人を悪い人のように見てしまっていますが、被告人は罪を着せられているだけかもしれない、本当は何もやっていないかもしれないことを忘れず、被告人・証人の意見を平等に聞けるようにしたいです。(女子)
- ・法とかのことに興味があったので、もっと興味が持てた。(女子)
- ・裁判に関する人として、それぞれに仕事のやり方と、ポリシーがあって、面白いなと思いました。でも、3人とも、公正な裁判をするというゆるぎない心を持っていて、それから仕事に対する熱が感じられてカッコいいなと思った。(男子)
- ・3人の方がこの仕事に就いた理由は、先輩たちの姿ということが大きく、この仕事をしたいと思ったことで、これを聞いた時に、人のために働いて、どれだけ大変でも努めているのはすごいなと感じました。(男子)
- ・「人を裁く」という場で必要なのは、人の気持ちを考えることだと思いました。(女子)
- ・「良心」とは自分勝手に決めるのではなく、それぞれの意見を聞いて、証拠となるものを見定めて判決を下すことであると知って、納得した。(女子)
- ・事件を起こしてしまった人の、後の人生も決めてしまうので、AIなどのコンピューターだけには任せてはいけないと思う。人間が判決を決めるべきだと思う。(女子)
- ・弁護士は犯罪者を弁護するのではなく、犯罪を犯したかどうかを決めるのだというのに、自分の弁護士への見方が変わった。(男子)
- ・自分の下した判断で人の人生を左右させるので、何人とも話し合っていて決めていることから、1つの事件にたくさん時間と人を使っているのだなと思った。(女子)
- ・模擬裁判ではどちらの意見もしっかりしていて、決めきれないところがあったけど、いつかは判決を出さないといけないので、改めて裁判官の決断力のすごさ、責任感が分かりました。(男子)
- ・本当に被告人が犯人なのか、証拠・証言が本当のことなのかも分からないので、裁判はすごく難しい(女子)
- ・人を裁くことに関する仕事をするには、しっかりと自分の考えを持っていないといけないんだなと思った(男子)
- ・1つ1つの判断に、誰かの命がかかっているの、誤りや中途半端な考えを持たないことが大事だと思った。(女子)
- ・これからの時代、AI化が進む中であっても、裁判までAI化して欲しくないなと思った。(男子)
- ・どの立場の人も、互いの立場でしっかりと話し合いをしているのを知り、自分自身もしっかりと話し合いということを大切にしたいと思いました。(男子)
- ・意見が一致しなかった際に、多数決と言っていたが、人の人生を決めるから、時間がかかっても、全員が納得した方がいいのでは?と感じた。(女子)
- ・被告人の意見を謙虚に聞く姿勢を持っていると知って、裁判に対する不安が少し和らいだのではないかなと思った。(男子)
- ・「良心」というのは、「誰に対しても仏の心で」という意見ではなく、公正になるように、その人の背景ではなく、今後を考えて判決出来ることだと思う。(女子)
- ・自分がもし裁判員候補者に選ばれたら、是非やってみたくて、今回のお話を聞いて思った。(女子)
- ・人が人を裁くことは大変だけど、人が裁くことによって、納得いく判断ができると思いました。(女子)
- ・自分勝手ではなく、真実や証拠に基づいて、慎重に判断することが大切で、1人ではなく何人かで話し合うことも時には大切だと思った。(男子)
- ・検察の方は、これでもまだ証拠が足りないと言っていたから、実際の事件で起訴まで持っていくには、どれだけ証拠があるのか、興味を持った。(男子)
- ・裁判を判決するには、明確なアリバイと具体的な証言が必要だと改めて感じました。(男子)
- ・裁判官、検察官、弁護士は、一般の人よりもすごい視点を持っているなと思いました。証拠の捉え方なども人によって違うので、裁判員制度をとったのは良いこともあるのかなと思いました。(女子)
- ・実際に模擬裁判を間近で見ると、難しい言葉がたくさん並んでいて、これを全て把握して裁判に臨むだけでも大変だなと思いました。(女子)
- ・「模擬裁判で取り扱ったような重大な問題は、普通1ヶ月を超えろ」と言われており、確かに証拠を吟味したり、大量の資料を読み込む必要があるから、とても大変な職業の人だなと思いました。(男子)
- ・裁判官、検事、弁護士の3つの面からの見方や考え方を知れて、法に関する学習をより深められたと感じました。(女子)

